●第一号議案

２０２１年度　創邦２１　事業報告

1　会議の開催

（イ）総会の開催

2021 年 11 月 12 日(金)　13 時より　　定時総会開催　　於 CAT オフィス

（ロ）例会の開催

2021 年	4 月 8 日 13 時より	第 198 回例会	於 CAT 会議室
〃	5 月 17 日 13 時より	第 199 回例会	於 CAT 会議室
〃	6 月 25 日 14 時より	第 200 回例会	於 CAT 会議室
〃	11 月 12 日 10 時 30 分より	第 201 回例会	於 CAT 会議室
〃	12 月 10 日 12 時より	第 202 回例会	於紫山会館
2022 年	2 月 17 日 11 時より	第 203 回例会	於 CAT 会議室

2　作品演奏会の開催

第 18 回作品演奏会

主催：創邦 21

日時：2021 年 12 月 13 日（月）

17 時 15 分開場　　18 時開演

場所：紀尾井小ホール(東京都千代田区)

制作協力：（株）シーエイティプロデュース

助成：芸術文化振興会

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

公益財団法人　日本製鉄文化財団

後援：公益財団法人 日本伝統文化振興財団

曲目：『三番目の声』（金子泰作詞／今藤政貴作曲）

『アンティゴネ』（三井千絵作詞／清元栄吉作曲）

『彩二題』

（風彩～箏とヴァイオリンによる：米川敏子作曲）

（糸彩～三味線と箏による：今藤長龍郎作曲）

『大工と鬼六』（金子泰作詞／今藤美治郎作曲／堅田新十郎作調）

『さあらば鈴を参らせう』（福原徹作曲）

『卒塔婆小町』（杉昌郎作／今藤政太郎作曲／藤舎呂船作調）

3　公開講座の開催

第 13 回創作のキモ

（20 年に行った「創作のキモ＋PLUS」を 12 回目とした）

主催：創邦 21

日時：2021 年 7 月 17 日（土）

12 時 15 分開場、13 時開始

場所：伝統芸能情報館 3 階レクチャー室

「シリーズ名曲を聴く①その２　しづかな流（昭和 34 年）

―ぼくらが与えられた影響を語ろう」

おはなし：清元栄吉ほか

ききて：今藤政貴

4　文化庁 AFF への応募と「創邦 21 冬の特別公演」の開催

創邦 21　冬の特別公演

主催：創邦 21

公演日：2021 年 12 月 28 日（火）

場所：紀尾井小ホール

後援：公益財団法人 日本伝統文化振興財団

曲目：『春雨』（木村富子作詞、二世清元栄次郎＝清元榮壽郎作曲）

『樹々の密』（六世福原百之助＝四世寶山左衛門作曲）

『高村光太郎“智恵子抄”より　千鳥と遊ぶ智恵子』（初代米川敏子作曲）

『旅』（田中青滋作詞、三世今藤長十郎作曲）

5　創邦 21 ホームページの運営

作品の音源公開、演奏動画公開

アーカイブとして「公演記録」を更新

同人の執筆したエッセイ、レポート等の掲載

「きまぐれな今日の一曲」の随時更新

ブログの更新

6　第 19 回作品演奏会準備

2022 年 10 月 25 日開催の第 19 回作品演奏会に向けて、諸準備

７　物故者

当団体会友・杵屋淨貢氏　2022 年 1 月 19 日ご逝去

【総　括】

１　2021 年 11 月 12 日に定時総会、また同年 4 月 8 日の第 198 回から翌 2022 年 2 月 17 日の第 203 回まで計 6 回の例会を行った。例会は、同人の新型コロナウイルス感染により夏ごろは例会開催を見送ったこともあり、例年に比べ回数が少ない。かわりにメール等で意見交換や方針決定をすることが増えた。そのようなことが続くと、実際に顔を合わせることの重要性も再認識した。と同時に、生の演奏会を行うことの重要性も改めて思い至った。

２　第 18 回作品演奏会は、協演者数が多くなった前回の反省から、編成の小さい作品を並べた。少人数での演奏は、個々の芸や作品の細部まで浮き立たせることとなり、会場である紀尾井小ホールによく合っていたように思われる。

少人数演奏という方針のもと、各曲にはまず編成上の工夫が見られた。唄 3 人のみの「三番目の声」、三味線 2 挺に乗せて英語詞章を朗読する「アンティゴネ」、箏とヴァイオリンの二重奏から三味線と箏の二重奏になる「彩二題」はそれぞれ新しい試みであったし、「大工と鬼六」「さあらば鈴を参らせう」「卒塔婆小町」も、余白の残し方と埋め方に各作曲者の工夫があった。

客席数は半分以下にして、指定席とした。前回より多くのお客様がお越しくださった。

今年度も、さまざまな方のご協力を得て開催できたことに深く感謝する。

３　2020 年秋、東京都の「アートにエールを！」（ステージ型）採択事業として、曲解説と演奏による「創作のキモ＋PLUS」に「しづかな流」を取り上げた。そこでの解説は作曲者自身のことや作曲・録音現場についての証言に重きを置いており、語る内容自体が資料としてもたいへん貴重だったのだが、もう少し現在に寄った分析も必要ではないかと思われた。

そこで、「われわれは「しづかな流」あるいは他の曲での三世長十郎師や清元梅吉師からどのような影響を受けているのか」を考える機会として、創作のキモの 13 回目を開催した。作品視聴には、前述の演奏映像を使用した。

４　創邦 21 同人にゆかりの深い昭和の先人の名曲を取り上げ、創作者の視点で「創作曲」として捉え直し演奏する公演を企画し、文化庁 AFF に応募した。12 月 28 日に、同採択事業として「創邦 21 冬の特別公演」を開催した。

12 月 13 日の本会（第 18 回作品演奏会）に引き続きの開催となり、アピールが弱かったことが悔やまれる。良い演奏ばかりだったので、観客が少なかったのが残念である。

５　創邦 21 ホームページを継続的に運営し、アーカイブとして、また「エッセイ」、「レポート」、ブログなど読む物の充実も目指した。

６　第 19 回作品演奏会の開催に向けて準備を始めた。

７　当団体設立の声掛け人の一人であり、段違いに豊かな経験を有しながらも一同人として共に歩み、数年前より会友となられた杵屋淨貢氏が、2022 年 1 月に逝去された。これまでのご助言、ご指導、諸活動に深く感謝し、謹んで心からの哀悼の意を表する。

前年から続く感染蔓延の中でも活動を継続したことを大いに評価したい。時代の変化を感じる今、機を逃さず、視野を広くして、やれることをやっていきたい。

2022 年、創邦 21 結成 25 周年である。大切な年としたい。

以上